

史跡 高天神城跡

一本丸ゾーン発掘調査概報

2009

掛川市教育委員会

例 言

- 1 本書は、平成10年度に策定した『史跡高天神城跡基本整備計画』に基づく史跡整備事業のため、本丸ゾーンで実施した発掘調査の概報である。調査は、平成13年度に確認調査を実施し、平成15・17～19年度に本調査を行った。
- 2 調査にあたっては、史跡高天神城跡整備委員会及び文化庁並びに静岡県教育委員会の指導の下に実施した。
- 3 調査は、史跡整備事業として、国・県の補助を得て実施した。
- 4 調査にあたっては、土地所有者である宗教法人高天神社の多大なる御協力を得た。
- 5 本書の編集・執筆は、掛川市教育委員会の前田庄一が担当した。
- 6 調査によって得た資料は、すべて掛川市教育委員会が保管している。

目 次

例 言	
I 平成 15 年度の調査	1
II 平成 17 年度の調査	2
III 平成 18 年度の調査	3
IV 平成 19 年度の調査	4

挿 図 目 次

第 1 図	調査地点位置図
第 2 図	平成 15 年度 本丸調査区平面図
第 3 図	平成 15 年度 本丸礎石・石敷き建物跡平面図
第 4 図	平成 17 年度 的場曲輪調査区平面図
第 5 図	平成 17 年度 的場曲輪石敷き遺構平面図
第 6 図	平成 17 年度 的場曲輪下腰曲輪平面図
第 7 図	平成 18 年度 調査地点位置図
第 8 図	平成 18 年度 No.5 地点遺構平面図
第 9 図	平成 19 年度 調査地点位置図
第 10 図	平成 19 年度 排水溝平面図 (1)
第 11 図	平成 19 年度 排水溝平面図 (2)

図 版 目 次

図版 I	平成 13 年度 確認調査 的場曲輪No.1 トレンチ遺構検出状況
	平成 13 年度 確認調査 的場曲輪No.1 トレンチ遺構検出状況 (南から)
	平成 13 年度 確認調査 的場曲輪No.3 トレンチ完掘状況 (西から)
図版 II	平成 13 年度 確認調査 本丸No.1 トレンチ遺構検出状況
	平成 13 年度 確認調査 本丸No.1 トレンチ遺構検出状況 (西から)
	平成 13 年度 確認調査 本丸No.2 トレンチ完掘状況
	平成 13 年度 確認調査 搦手トレンチ完掘状況 (北から)
図版 III	平成 15 年度 本丸 石敷き建物跡検出状況 (北から)
	平成 15 年度 本丸 石敷き建物跡検出状況 (東から)
	平成 15 年度 本丸 西側土塁周辺検出状況 (東から)
図版 IV	平成 17 年度 的場曲輪 石敷き遺構検出状況 (南から)
	平成 17 年度 的場曲輪 石敷き遺構と礎石検出状況 (東から)
	平成 17 年度 的場曲輪 石敷き遺構検出状況 (東から)
	平成 17 年度 的場曲輪 鉄砲玉出土状況
	平成 17 年度 的場曲輪下腰曲輪 完掘状況 (東から)

- 図版 V 平成 18 年度 No. 1 地点 障壁検出状況（西から）
平成 18 年度 No. 1 地点 障壁周辺完掘状況（西から）
平成 18 年度 No. 5 地点 遺物出土状況
平成 18 年度 No. 5 地点 完掘状況（東から）
- 図版 VI 平成 18 年度 No. 4 地点 完掘状況（東から）
平成 18 年度 No. 4 地点 完掘状況（東から）
平成 19 年度 No. 1 地点 完掘状況（東から）
平成 19 年度 No. 7 地点 完掘状況（東から）
- 図版 VII 平成 19 年度 No. 5 地点 完掘状況（東から）
平成 19 年度 No. 6 地点 完掘状況（北から）
平成 19 年度 No. 8 地点 完掘状況（西から）
平成 19 年度 No. 9 地点 完掘状況（西から）

I 平成 15 年度の調査

1 調査の概要

平成 15 年度の調査は、本丸部分を対象とした。

平成 15 年 8 月 21 日に調査に着手し、平成 16 年 3 月 31 日まで実施した。調査面積は、約 680 m²である。

2 遺構の概要（第 2 図・第 3 図）

本丸の北西隅から、掘立柱建物跡と礎石建物跡が検出された。

掘立柱建物跡は、桁行 6 間（約 10.8m）、梁間 2 間（約 4.7m）の側柱建物跡で、主軸方位は N-31° 30′ -E を測る。桁行の柱間は、1.70~1.98m を測るが、北東側の 2 間分は、間に柱穴が入り間隔が狭くなる。梁間 2 間は等間ではなく、東が狭くなる。柱穴の底面のレベルは、北西隅が最も深く、南東隅が最も浅くなり、高低差は 48 cm を測る。

建物の内部から、10 cm に満たないものから 30 cm 程度の大きさの礫が検出されていて、石敷きの建物跡と考えられる。北端の柱穴から約 1 m のところまでは石敷きが存在しないので、後世にはずされた可能性がある。この部分の西側に本丸の虎口があり、これと関係する可能性がある。

また、西側の柱穴列のほぼ中央西側で柱穴から約 40 cm 離れた場所から、横口を揃えるように 11 個の石列が 2.9m にわたって検出された。

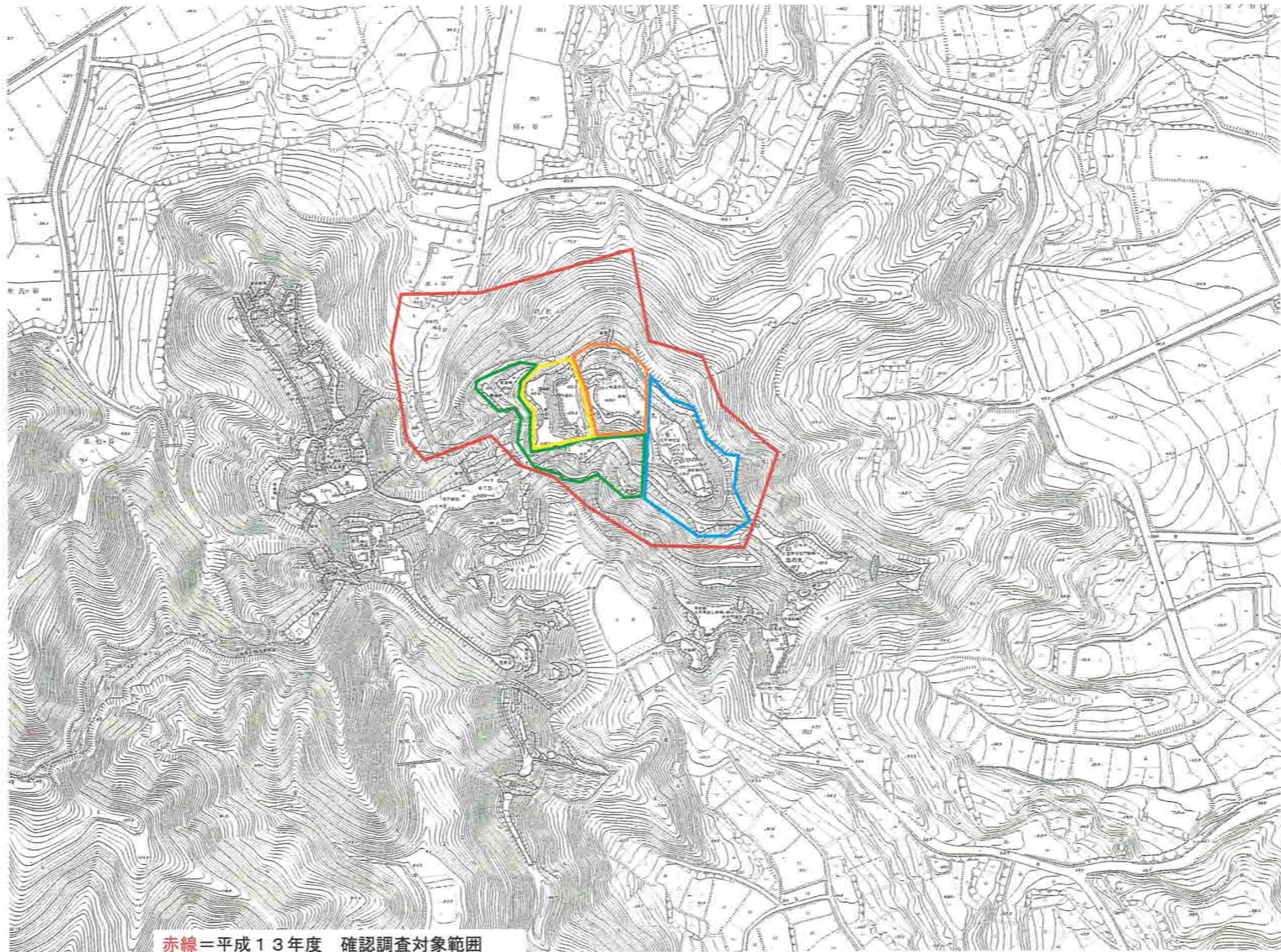
礎石建物跡は、北側の桁行で 3 個、南側の桁行で 4 個の礎石が残存していた。桁行 4 間（約 7.1 m）、梁間 1 間（約 3.3m）の規模と考えられる。南側の礎石の主軸は、N-61° -W で、北側の礎石の主軸が、N-58° -W であることから、建物は N-59° 30′ -W 前後の主軸方位と考えられ、先述した掘立柱建物跡とは直交する向きとなる。

礎石間の距離は、中心間で 1.77~1.91m を測り、礎石の大きさは最小のものが 19 cm×25 cm、最大のもので 30 cm×39 cm を測る。礎石のレベルは、北東隅が最も低く、南西隅が最も高く、高低差は 13 cm を測る。

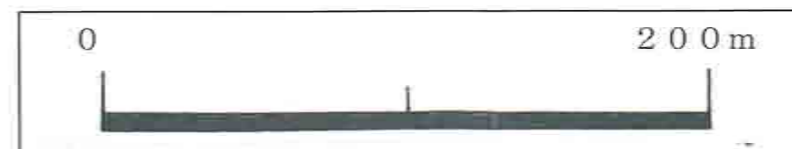
現地調査の段階では、重複する掘立柱建物跡と礎石建物跡の時期的な前後関係を、掘立柱建物跡の後に礎石建物跡を位置づけていたが、北西の礎石推定位置に石敷きが存在すること、その隣の礎石推定位置には、掘立柱建物跡の柱穴が存在することから、時期的な前後関係が逆転する可能性がある。

3 遺物の概要

今回の調査で出土した遺物は、16 世紀後半の常滑産の甕、かわらけ等がある。



- 赤線 = 平成13年度 確認調査対象範囲
- 橙線 = 平成15年度 本発掘調査範囲
- 黄線 = 平成17年度 本発掘調査範囲
- 緑線 = 平成18年度 本発掘調査範囲
- 青線 = 平成19年度 本発掘調査範囲



第1図 調査地点位置図

II 平成 17 年度の調査

1 調査の概要

平成 17 年度は、的場曲輪及びその周辺を調査対象とした。的場曲輪は、本丸西側の約 6 m 低い位置にあり、曲輪の北側から西側中央にかけてと南側には土塁が残る。さらに約 7 m 下の腰曲輪と合わせて、西側から攻め込んでくる敵から本丸を防御するための重要な曲輪である。

発掘調査は、平成 17 年 8 月 9 日に着手し、平成 18 年 3 月 25 日に終了した。調査面積は、約 1,000 m²である。

2 遺構の概要（第 4 図～第 6 図）

平成 15 年度の本丸の発掘調査で検出された石敷き遺構が、今回の調査においても検出された。

曲輪の南半から検出された石敷き遺構の範囲は、東西約 5 m、南北約 11 m を測る。使用されている礫の大きさは、10 cm に満たないものから 30 cm を超える大きさのものまで様々である。石敷きの西端は揃っていて直線を呈するが、他の端は輪郭が明瞭ではない。また、北端近くに東西方向で幅約 20 cm の隙間があり、南端近くにも幅 50～60 cm の東西方向の隙間がある。

北東隅からは、山側に向かう直線状の暗渠が約 2.4 m にわたって検出されたが、そこから先は検出されておらず、南に向かうのか北に向かうのか不明である。

石敷きの南端は、現存する土塁の下に入っていることをトレンチ調査で確認している。

石敷きの範囲からは、4箇所凹みが検出された。この凹みは、石が敷かれた後に凹んだのではなく、凹みをつくった後に石を敷いていることが、敷かれた石の組み合わせの状況から明らかとなった。ただし、この 4箇所凹みは、配置が不規則であり、機能は明確ではないが、不安定な形状のものを安定させるためにつくられた施設と考えられる。

石敷き遺構の周辺からは、この遺構に伴う柱穴や礎石等は検出されなかった

石敷きの内外からは、別の建物の礎石と考えられる石も確認されたことから、礎石建物が存在したことが判明したが、石敷き遺構との时期的な前後関係、規模等は判明しなかった。

的場曲輪下の腰曲輪は、南北約 42 m、東西は最も狭い部分で約 4 m の規模で、曲輪の北端に土塁が残存し、北端近くに現況の高さ約 1 m の土塁が的場曲輪方向から曲輪内に張り出している。

南端から約 3.7～5.7 m にかけてわずかに曲輪に張り出す部分があるため、この南側を掘り下げたところ、曲輪の輪郭に沿うように幅約 1 m の石敷きが検出された。

現況では北端のみに残存する土塁が本来は西側にも存在したのか探したが、存在したという確証は得られなかった。また、礎石と考えられる礫が数点確認されたが、原位置から移動していて、規模等は判明しなかった。

3 遺物の概要

今回の調査において、陶磁器・金属製品が出土した。

陶器は、瀬戸美濃産の天目茶碗・すり鉢・皿、常滑産の甕、かわらけなどがある。そのほか、中国産の青磁・白磁・染付の碗・皿、華南三彩、朝鮮製の白磁碗が出土した。

そのほか、わずかであるが鉄砲玉、鉄釘が出土した。

出土遺物は、16 世紀中頃から後半に位置づけられると考えている。

Ⅲ 平成 18 年度の調査

1 調査の目的と経過

平成 18 年度は、的場曲輪西側に段状に巡る腰曲輪 (No.1・2 地点)、三日月井戸南側に展開する腰曲輪の一部 (No.3 地点)、本丸南側の腰曲輪 (No.4 地点)、的場曲輪南側の木戸跡とも想定されるピット群を含んだ張り出し部分 (No.5 地点) の調査を実施した。

発掘調査は、平成 18 年 12 月 19 日に着手し、平成 19 年 3 月 30 日に終了した。調査面積は、約 1,500 m²である。

2 遺構の概要 (第 7 図・第 8 図)

No.1 地点の南端の山沿いから、下段の曲輪である No.2 地点へ続くと考えられる、幅約 1.5m の通路状遺構が検出された。また、曲輪の北奥において、黄褐色粘土を版築状に盛った基壇状遺構が検出された。建物等の遺構は検出されなかったが、基壇状遺構の西には狭隘な平坦面が設けられていることから、位置を考慮すると曲輪をつなぐ通路上に設けられた障壁の機能を有していたものと考えられる。

No.3 地点は、腰曲輪の一部であることが判明したが、遺構は明確ではない。

No.4 地点は、本丸下の通路をはさんで南側に展開する腰曲輪で、規模も小さく、建物を示す遺構は検出されなかったが、小溪谷に挟まれた緩斜面を削平した比較的簡便な曲輪であることが明らかとなった。曲輪外的小溪谷には、犬走り状の遺構も確認されていて、上部の曲輪につながる通路の可能性が考えられる。

No.5 地点からは、約 70 基のピットが検出された。ピット群の中には、柵列となるものも考えられる。柵列 1 は、的場曲輪の南に位置する 4 間の柵列である。うち 3 間は一直線に並び、柱穴は直径 50~60 cm、深さは確認面から約 70 cm を測り、柱穴間は約 1.7~1.9m を測る。3 間の西に続く 1 間は、3.2m の間隔をおき、柱穴は径 70 cm × 1 m の楕円形を呈し、確認面からの深さ 64 cm を測る。柵列 2 は、柵列 1 の南東に位置する 1 間の柵列で、柱穴の直径 40~70 cm、深さは確認面から 37 cm と 89 cm を測る。柵列 3 は、柵列 1 の南西に位置する 3 間の柵列で、柱穴の直径 40 cm 前後、深さは確認面から 50~70 cm を測る。柱穴間の距離は、1.76~1.96m を測る。これらは、的場曲輪・本丸を控えた虎口の空間の作事遺構と考えられる。

また、南側の張り出し部は、地山を削り出して造成したものではなく、緩斜面を階段状に段切りした後、埋め立てて張り出し部を造成していることが判明した。

3 遺物の概要

No.1~4 地点からは、数点から十数点の陶磁器片が出土しているが、これらは的場曲輪・的場下腰曲輪からの流れ込みと考えられる。

No.5 地点では、ピット等の遺構に伴う遺物はほとんど検出されなかったが、造成土中からは、陶磁器類が比較的まとまって出土している。大窯第 2・3 段階の瀬戸・美濃系陶器に混じって、大窯第 1 段階に比定される完形率の高いものが含まれていた。これまでの調査から、遺物の大半は 16 世紀中葉から後半の武田・徳川期のものであるが、本丸周辺域の初期の普請は、16 世紀の前半に溯ることが出土遺物から裏付けられた。

IV 平成 19 年度の調査

1 調査の目的と経過

本丸ゾーンの調査として、本丸東側帯曲輪 (No.1～4・7 地点)、三の丸北側に展開する曲輪の周辺 (No.5・6 地点)、御前曲輪 (No.8 地点) とその周辺 (No.9 地点) の調査を行った。

また、昭和 58 年度に土砂災害に伴い実施した確認調査のトレンチ痕があったことから、再掘削を行った。

発掘調査は、平成 19 年 12 月 13 日に着手し、平成 20 年 3 月 28 日に終了した。調査面積は、約 200 m²である。

2 遺構の概要 (第 9 図～第 11 図)

No.1・2 地点では、幅約 2.7m の帯曲輪が検出され、山裾に沿って排水溝が存在し、崖側には粘土を用いた土塁の存在が明らかとなった。

排水溝は、幅 20～35 cm、深さ 15～20 cm で、曲輪側には 10～40 cm の礫を使用した石組みが存在した。この排水溝は、No.2 地点において崖方向に L 字状に折れ曲がり、排水する構造となっていた。No.7 地点から南側は、No.1・2 地点より約 1 m 高くなる。調査前の地表面の観察では一連の帯曲輪と考えられたが、区切られた構造であることが明らかとなった。

No.7 地点から No.4 地点にかけて検出された排水溝は、No.7・3 地点では幅 20～40 cm、深さ 10 cm を測り、曲輪側に石組みが存在するが、No.4 地点では石組みは存在しない。排水溝の底面のレベルは、No.3 地点の北端が最も低くなることから、No.7 地点と No.3 地点の間で崖側に排水される可能性がある。

排水溝に使用された礫は、No.1 地点が 1～3 段、No.2 地点が 1 段と 2 段、No.7・3 地点が 1 段である。礫の組み方は、No.1 地点は大型礫は横口、小型礫は小口、No.2 地点は横口と小口の併用、No.7 地点は小口、No.3 地点は主に横口である。また、No.1・2 地点は礫の上端が平らになるように揃えているが、No.7・3 地点ではそのような意識は見られない。

これらの差が何に起因するのか、検証する必要がある。

三の丸北側の No.5・6 地点及び本丸西側下の No.9 地点では、現地形と同じ様相を呈していて、縄張図とほぼ同じ形状の曲輪であることが判明した。

御前曲輪の No.8 地点では、昭和期のコンクリート基礎による遺構の損傷の程度を確認するためにトレンチを設定し掘削したが、遺構面までの土砂が予想外に厚く堆積していた。このことから、遺構の残存状況は良好であると推定された。

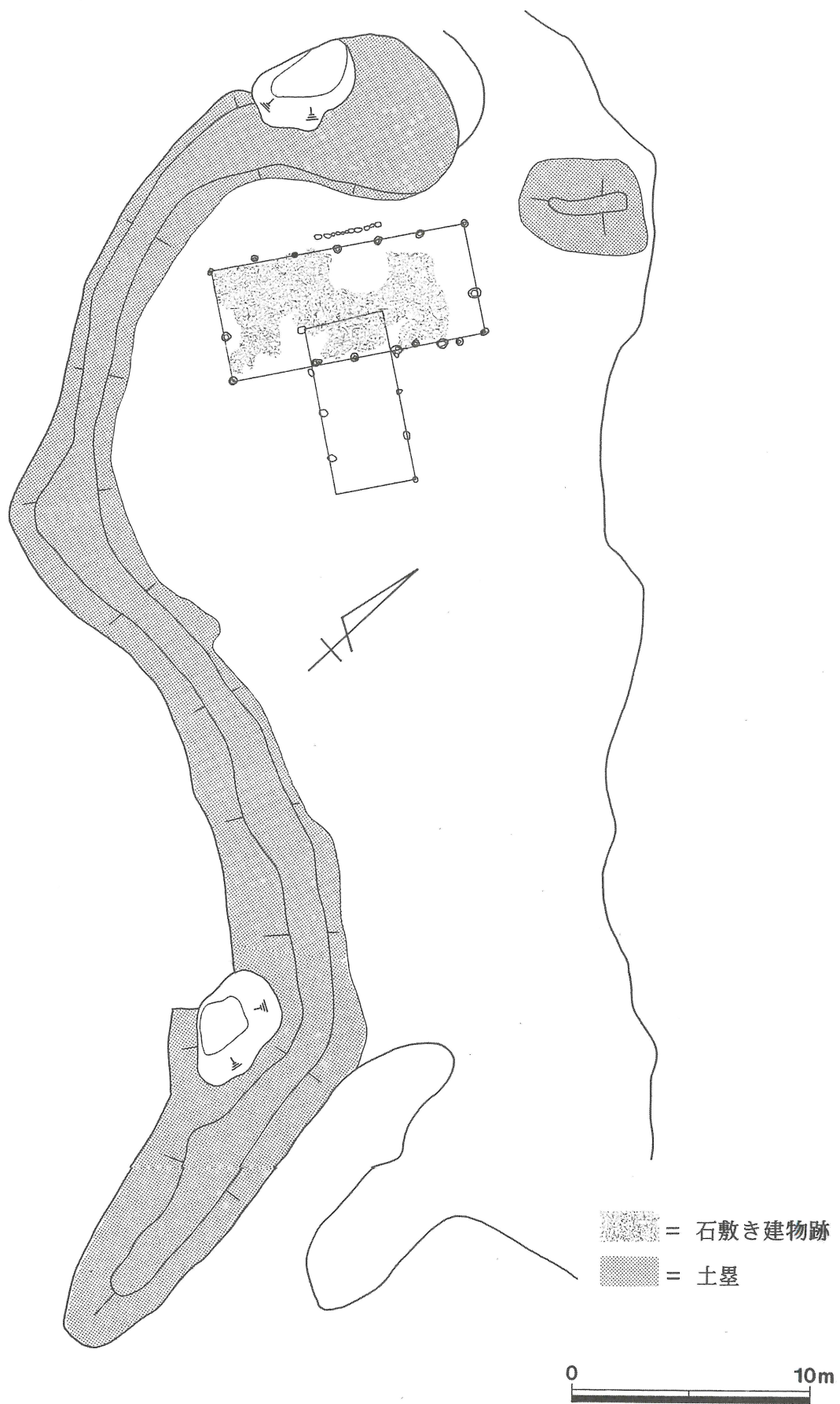
3 遺物の概要

各地点において、わずかながら遺物が出土している。

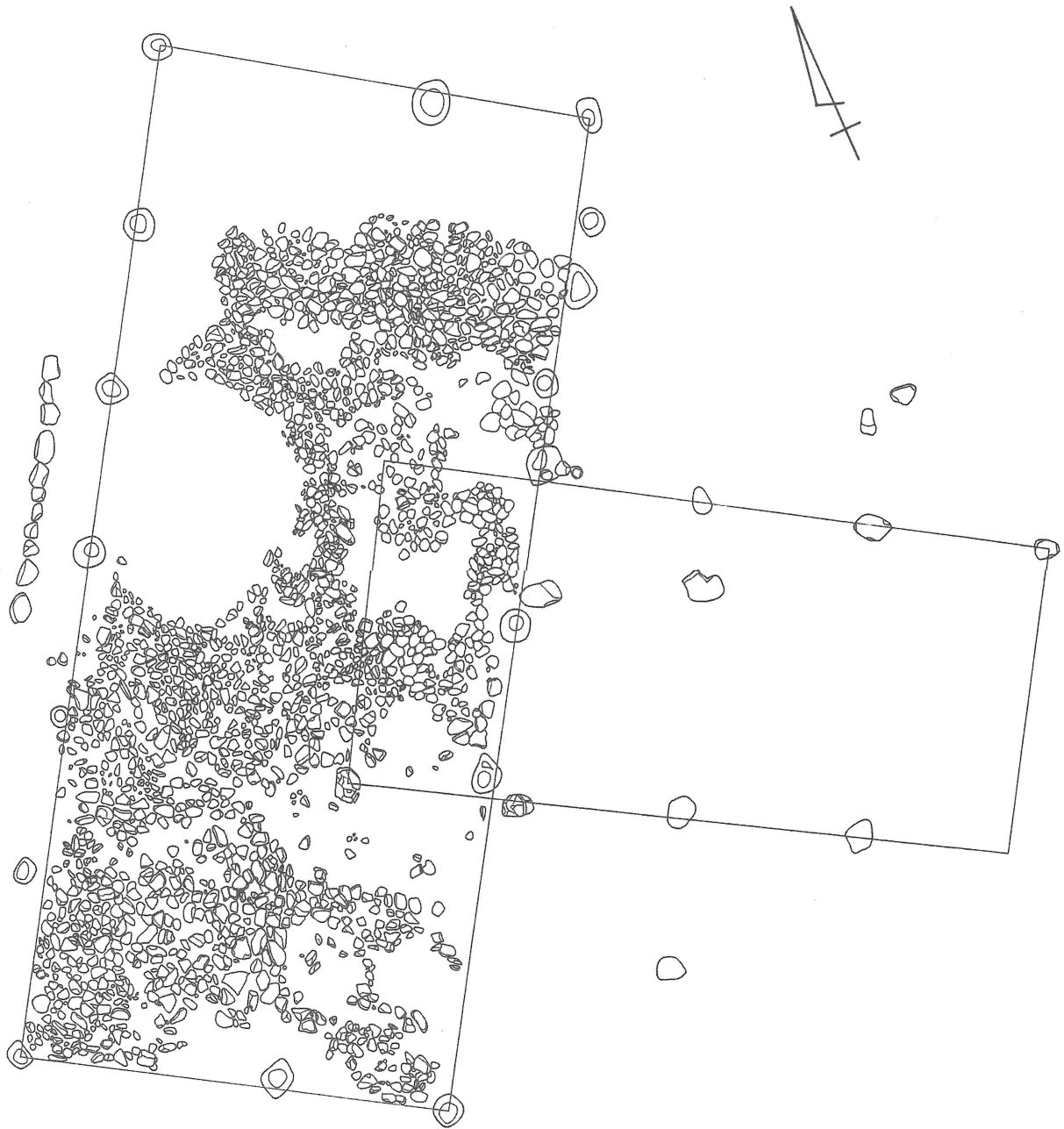
No.1～4・7 地点から出土した遺物のほとんどが、本丸からの流れ込みと考えられる。

No.8 地点からは 2 点の遺物が出土し、No.5 地点からは遺構の直上から 20 数点の遺物が出土している。

これらの遺物は、すり鉢・甕・かわらけ・天目茶碗・釘等であり、大窯第 2・3 段階の 16 世紀中葉から後半の武田・徳川期に位置づけられる。



第2図 平成15年度 本丸調査区 平面図



0 4m

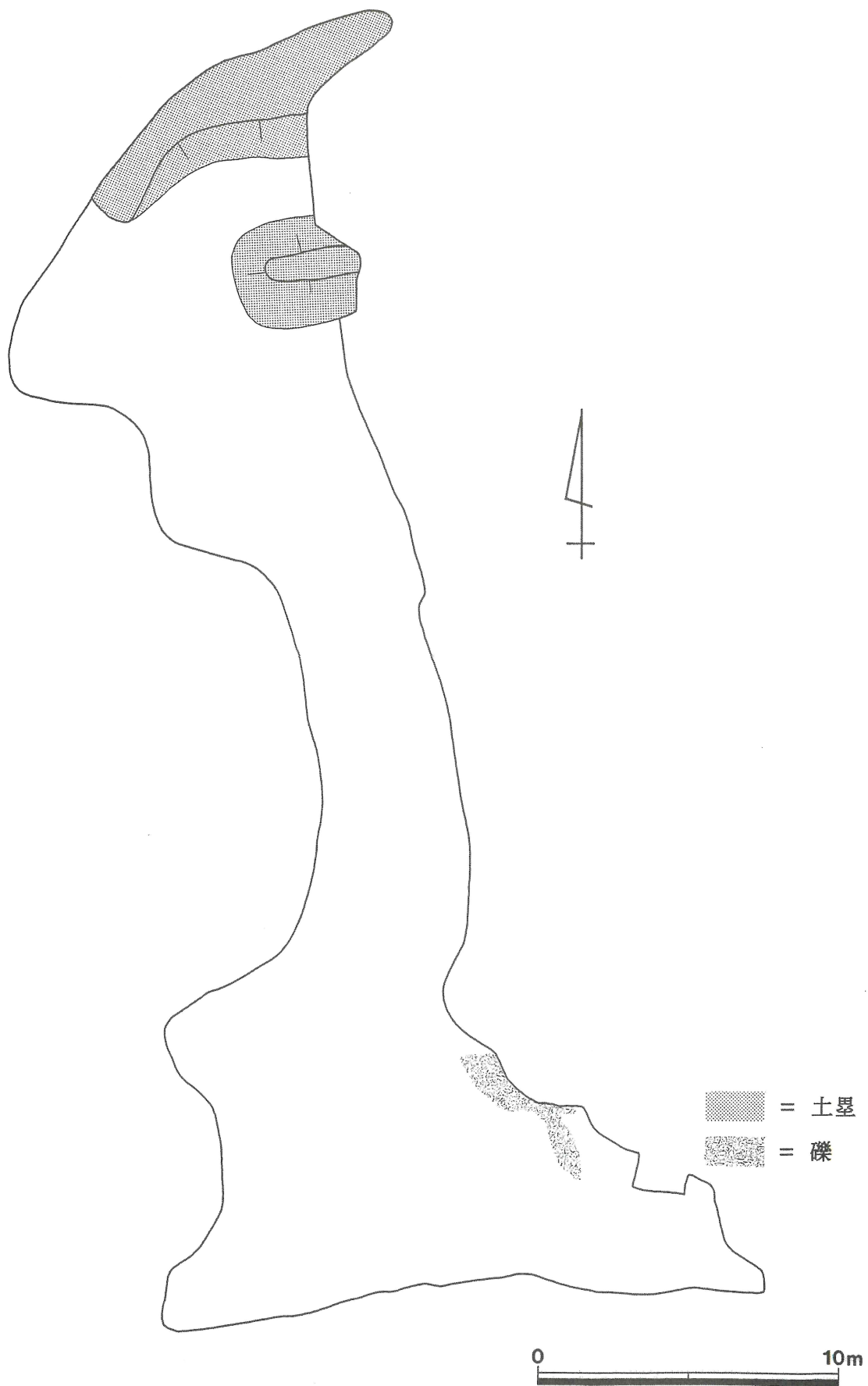
第3図 平成15年度 本丸礎石・石敷き建物跡 平面図



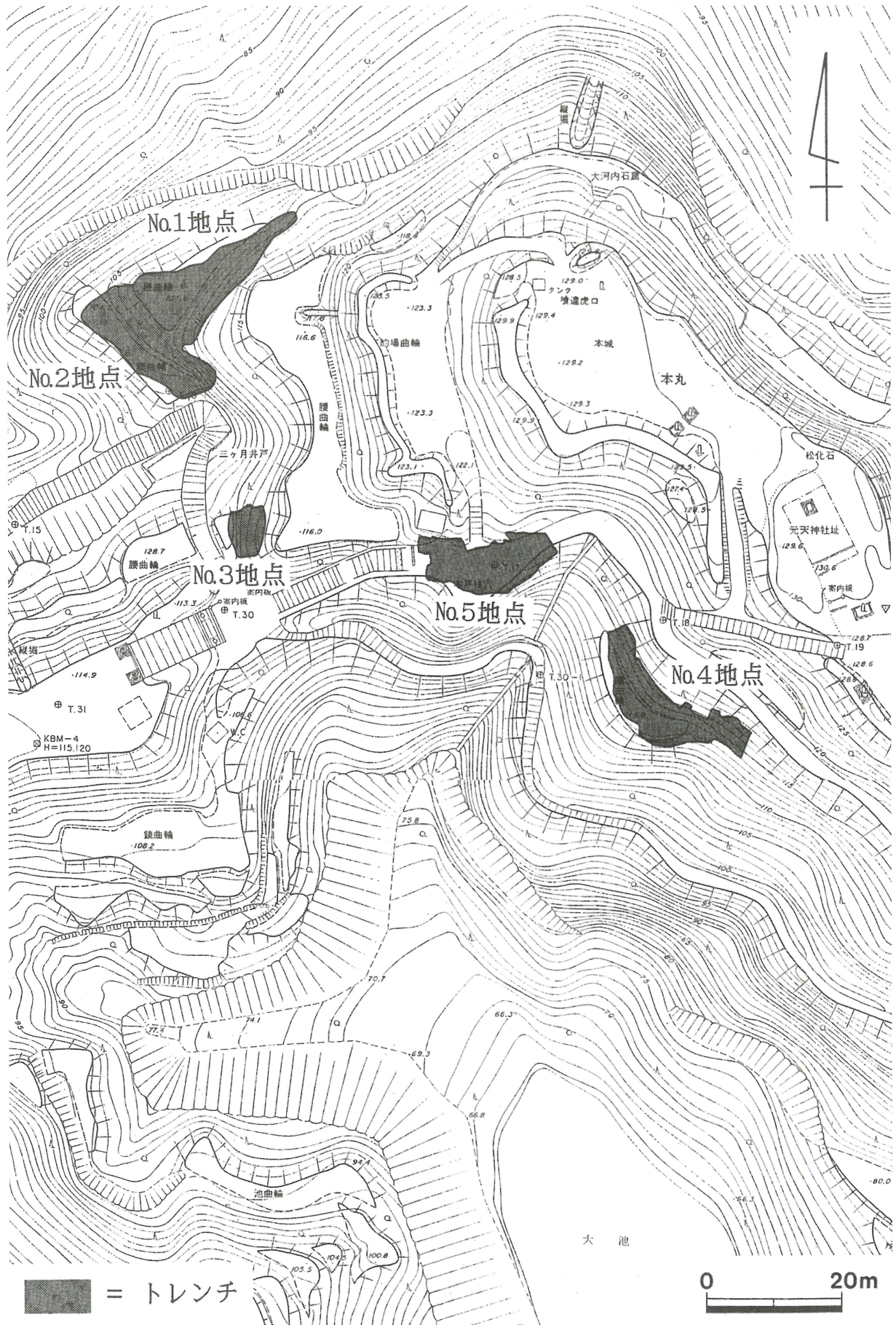
第4図 平成17年度 的場曲輪調査区 平面図



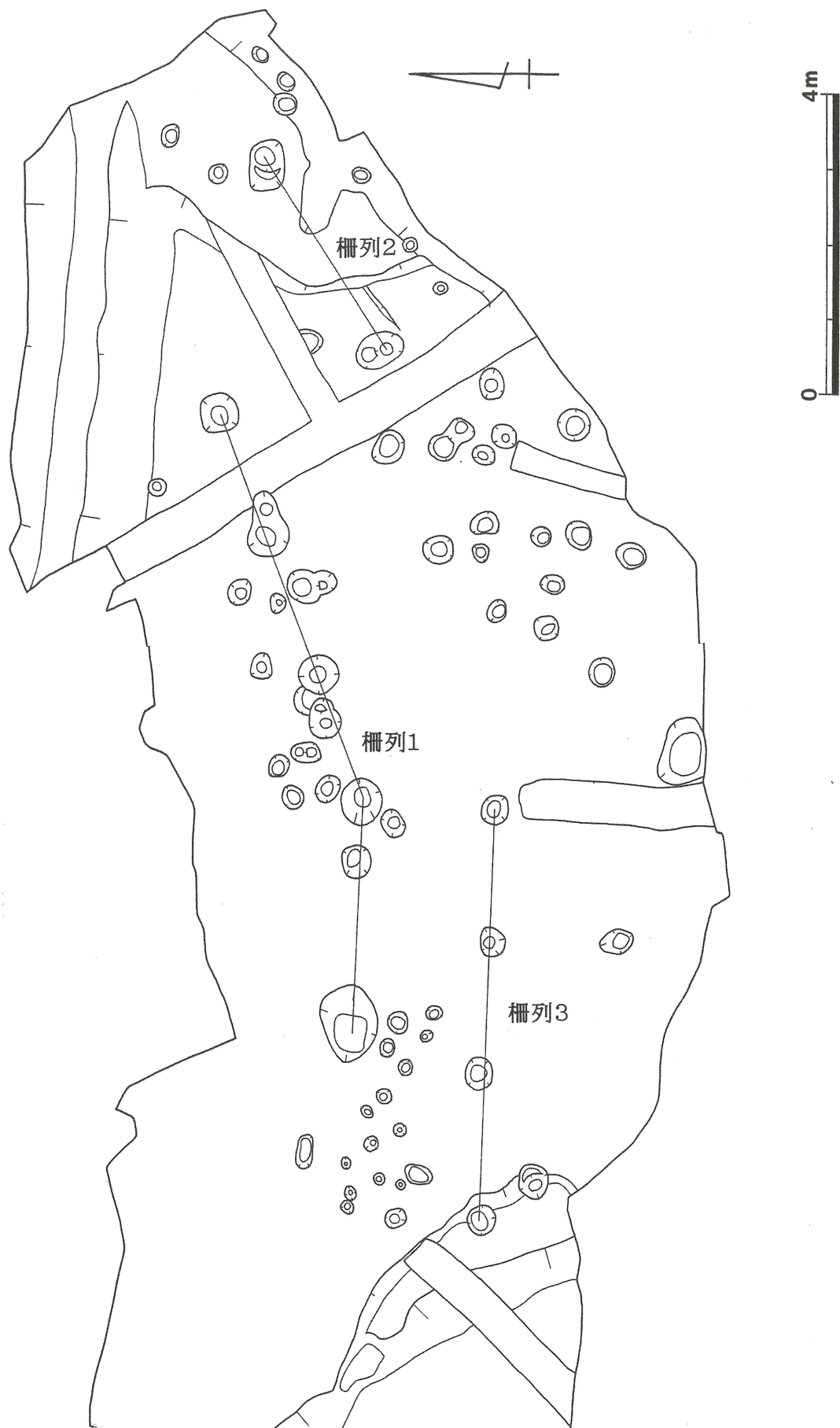
第5図 平成17年度 的場曲輪石敷き遺構 平面図



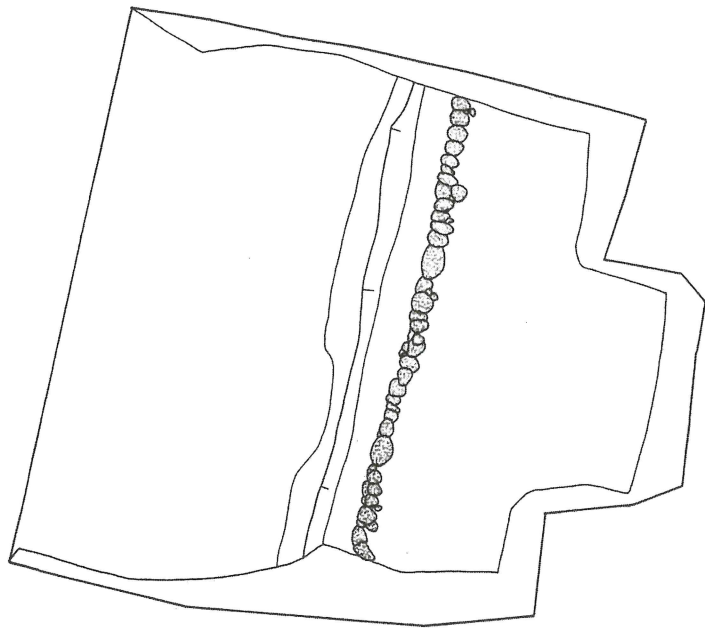
第6図 平成17年度 の場曲輪下腰曲輪 平面図



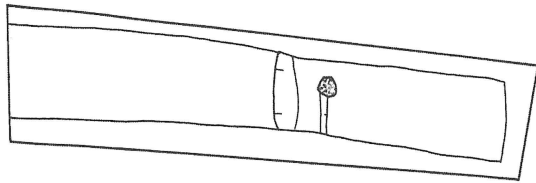
第7図 平成18年度 調査地点 位置図



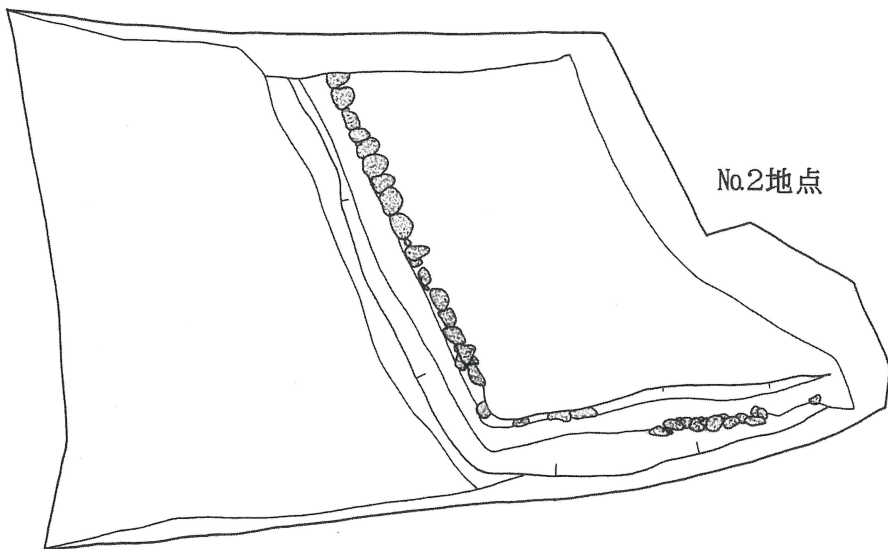
第8図 平成18年度 No.5地点遺構 平面図



No.1地点



昭和58年度トレンチ

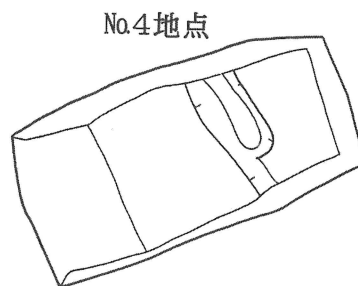
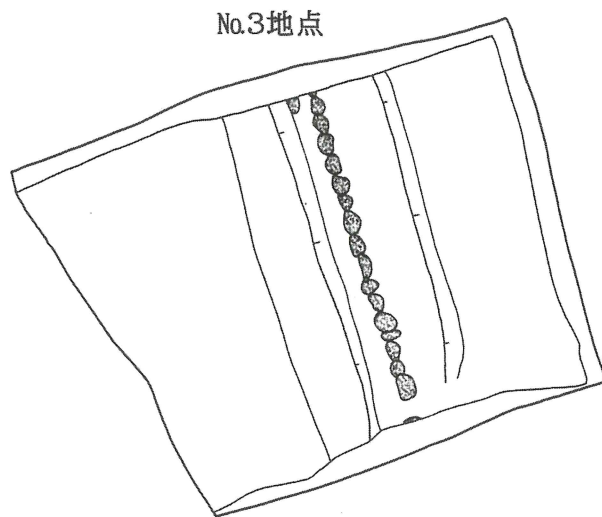
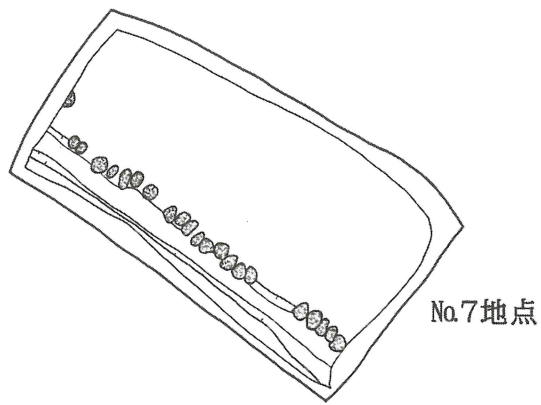


No.2地点

 = 礫



第10図 平成19年度 排水溝 平面図(1)



 = 礫



第11図 平成19年度 排水溝 平面図(2)

写真図版



平成19年度 No.2地点 完掘状況（北から）

図版 I



平成13年度 確認調査 的場曲輪No.1トレンチ 遺構検出状況



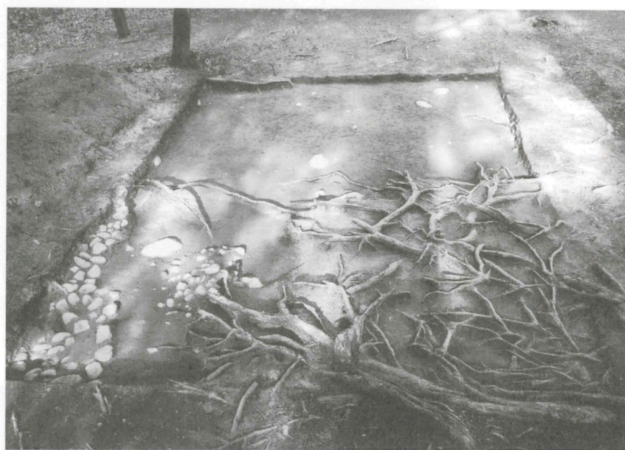
平成13年度 確認調査 的場曲輪No.1トレンチ 遺構検出状況（南から）



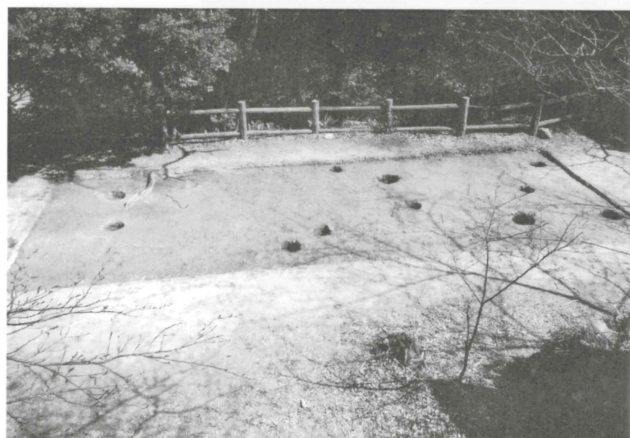
平成13年度 確認調査 的場曲輪No.3トレンチ 完掘状況（西から）



平成13年度 確認調査 本丸No.1トレンチ 遺構検出状況



平成13年度 確認調査 本丸No.1トレンチ
遺構検出状況（西から）



平成13年度 確認調査 本丸No.2トレンチ 完掘状況



平成13年度 確認調査 搦手トレンチ 完掘状況（北から）

図版Ⅲ



平成15年度 本丸 石敷き建物跡 検出状況（北から）



平成15年度 本丸 石敷き建物跡 検出状況（東から）



平成15年度 本丸 西側土塁周辺 検出状況（東から）



平成17年度 的場曲輪 石敷き遺構 検出状況（南から）



平成17年度 的場曲輪 石敷き遺構と礎石
検出状況（東から）



平成17年度 的場曲輪 石敷き遺構 検出状況（東から）



平成17年度 的場曲輪 鉄砲玉出土状況



平成17年度 的場曲輪下腰曲輪 完掘状況（東から）

図版V



平成18年度 No.1地点 障壁 検出状況（西から）



平成18年度 No.1地点 障壁周辺 完掘状況（西から）



平成18年度 No.5地点 遺物出土状況



平成18年度 No.5地点 完掘状況（東から）



平成18年度 No.4地点 完掘状況（東から）



平成18年度 No.4地点 完掘状況（東から）



平成19年度 No.1地点 完掘状況（東から）

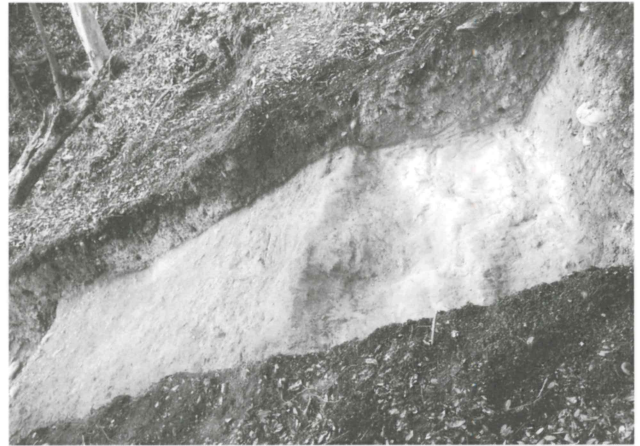


平成19年度 No.7地点 完掘状況（東から）

図版Ⅶ



平成19年度 No.5地点 完掘状況（東から）



平成19年度 No.6地点 完掘状況（北から）



平成19年度 No.8地点 完掘状況（西から）



平成19年度 No.9地点 完掘状況（西から）

報告書抄録

ふりがな	しせき たかてんじんじょうあと							
書名	史跡 高天神城跡							
副書名	本丸ゾーン発掘調査概報							
編著者名	前田庄一							
編集機関	掛川市教育委員会							
所在地	〒436-8650 静岡県掛川市長谷一丁目1番地の1							
発行年月日	西暦2009年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しせき たかてんじんじょうあと 史跡 高天神城跡	静岡県掛川市上土方嶺向	22213		34度 41分 55秒	138度 2分 8秒	2003年8月 ～ 2004年3月	680㎡	史跡整備
しせき たかてんじんじょうあと 史跡 高天神城跡	静岡県掛川市上土方嶺向			34度 41分 55秒	138度 2分 8秒	2005年8月 ～ 2006年3月	1,000㎡	史跡整備
しせき たかてんじんじょうあと 史跡 高天神城跡	静岡県掛川市上土方嶺向			34度 41分 55秒	138度 2分 8秒	2006年12月 ～ 2007年3月	1,500㎡	史跡整備
しせき たかてんじんじょうあと 史跡 高天神城跡	静岡県掛川市上土方嶺向			34度 41分 55秒	138度 2分 8秒	2007年12月 ～ 2008年3月	200㎡	史跡整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
史跡 高天神城跡	城館跡	中世	据立柱建物跡、礎石建物跡		陶磁器			
史跡 高天神城跡	城館跡	中世	石敷き遺構		陶磁器			
史跡 高天神城跡	城館跡	中世	障壁、柵列		陶磁器			
史跡 高天神城跡	城館跡	中世	石組み排水溝、土塁		陶磁器			

史跡 高天神城跡
 —本丸ゾーン発掘調査概報—

平成21年3月31日発行

発行 掛川市教育委員会
 〒436-8650
 掛川市長谷一丁目1番地の1
 TEL : 0537(21)1158

印刷 株式会社アピサレ
 〒436-0038
 掛川市領家864-1
 TEL : 0537(24)2301

